

飛鳥川原板葺宮御宇天皇皇之代、癸卯年春三月頃、但馬國七美郡山里人家有嬰兒女、中庭匍匐

驚擒騰空、指東而翥略○中

翥波不利、又云、加介利伊久、

〔日本靈異記中〕翔カケル

〔倭名類聚抄羽族〕雌雄

利。陰陽相下之義也、

〔段注說文解字四上〕雥、鳥父也、从隹、宏聲、羽弓切、古、雌、鳥母也、从隹、此聲、此移切、十、

〔類聚名義抄鳥〕鳴メトリ

〔同九〕雄俗、正、音熊、ヲドリ、雌音斯、メドリ、雀俗

〔璫囊抄〕知雌雄法事

於鳥雌雄易知アリ、其別不見アリ、如何シテ可辨哉、誠ニ鳥ノ雌雄易知、鴛鴦、山鷄、雉等也、其難辨、

鳥雀以下ノ類歟、於其知法アリ、爾雅云、以翼右掩左ヲ雌也ト云リ、以之可知、

〔諸禽萬益集中〕小鳥雌雄をわかつ事

鳥の雌雄をみる事、毛いろの美醜による、夫、深色にして美なるものは雄、浅色にして醜なるものは雌なり、雄に轉り有、雌に轉りなし、雄のうちいろいろの浅深あり、深きものは轉りよし、浅きものは轉りよろしからず、色艶これを照といふ、雌雄見分がたきものは、雀さゞい、鶯めじろ、山雀、ゑながの類なり、色の深淺少しのかはりにて、俗眼の見分る處にあらず、これを知ること、其鳥の大小による、大なるものは雄、小なるは雌なり、足はし太きは雄、細きは雌也、てり美なるは雄、醜は雌なり、こゝをもつて雄の善惡且雌雄を見るべし、衆鳥みなかくのごとし、心を用ゆるにあらずんば、いかでかこれをまをることを得ん、愚者は一鳥を百見すともうべからず、智者百鳥を一見すとも得て知るべし、